

災害直後の連絡方法

特に救護本部から各病院・飼い主の方への情報配信について

VETS-えひめ IT 委員会委員長
矢野 尚孝

災害時の連絡方法には、IT を利用した場合も様々な手段があり、どれも一長一短がある。さらに、災害時となると、電話網や PC・携帯電話など端末の状況も万全ではない可能性が高いので、様々な状況を想定しておく必要がある。

大前提として

【1】 ホームページを代表とする「プル型」の情報配信

「プル型」は、必要な情報をユーザーが能動的に「引き出しに行く」情報配信方法。

【2】 電子メールや各種 SNS を利用した「プッシュ型」の情報配信

「プッシュ型」は、情報発信者が発した情報をユーザーが受動的に「受け取る」情報配信方法。

この双方を事前に確立しておく必要がある。

【1】 「プル型」の情報配信

現状、ホームページの運営は既に行われているので、災害対策時に見るべきページを追加するなど、比較的簡単に対応可能である。

【2】 「プッシュ型」の情報配信

一般的には、電子メールが常套手段と思われる。

ただ、昨今では、災害時だけでなく、迷惑メール対策の煽りなどで電子メールに対する信頼性が薄れているのが現状であり、それに伴い、今後は、いわゆる SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)と電子メールを併用した環境を、事前に構築しておくことが重要である。

① 電子メール

電子メールは、緊急時に一通一通手作業で送ることは、困難なので、予め用意してあるメールマガジン・メーリングリストの様な一斉配信の手段を利用すべきである。

これに関しては、あらかじめ信頼できるメールマガジン配信システムを導入し、獣医師のみならず、一般市民の方にも、事前にご登録して頂く事により、災害時はもとより、通常の情報配信にも利用が可能である。

② SNS

SNS に関しては、現状では、3 サービスに絞られる。

[1] Facebook

[2] Twitter

[3] LINE

この3つは、いずれも携帯電話からもパソコンからも情報を受信・発信の双方を行うことが可能である。

[1] Facebook

利用者の概算は2千万人。

実名での登録が原則のサービスで、利用者の年齢層は比較的高いと言われている。

携帯電話でもパソコン(インターネット閲覧ができれば OK)からでも利用可能。

「VET'S-えひめ」では導入済ですので、現状は、facebook で情報発信する事になる。

[2] Twitter

利用者の概算は2千万人。

短文での情報交換・交流が主な目的ですが、東日本大震災の際に、電話の音声通話が不通となっても twitter での情報発信は可能だったという実績がある。携帯電話でもパソコン(インターネット閲覧ができれば OK)からでも利用可能。

[3] LINE

利用者の概算は3千万人。

他の2つのサービスに比べ、携帯電話での利用割合が高く、パソコンで利用する場合には専用ソフトのインストールが必要。

考察

どれか一つに絞るとなると、過去の実績からも **Twitter** が最有力候補になる。ただ、すでに「**VETS'S-えひめ**」で活用している **Facebook** はもちろん、**LINE** も含め三者三様である。

現状では、**LINE** は、まだまだ私的な利用が多く、公共サービスなどのイメージは定着していないが、その爆発的な普及は無視できないと考えられる。

また、この分野は、利用率・利用人口が流行に左右されやすく、1年後の状況すら予測がつかないのが現状であり、できるだけ多くの手段を確保し、状況に応じて臨機応変に対応できる体制を整えておく事が重要であると考えられる。

* 執筆にあたりご助言頂きました、愛媛 **Web-TV** 本多好則様に深謝いたします。